

中国レポート

## 中国共産党の人材育成と党学校の役割

政策研究大学院大学

(独)科学技術振興機構 中国総合研究センター アドバイザリー委員

角南 篤

## はじめに

先日、中国共産党中央党校と私が所属する政策研究大学院大学との間で、「維持可能な発展戦略」に関する合同シンポジウムを北京で開催した。そこでは、両大学の出席者により都市・農村問題からエネルギー環境問題まで幅広く意見交換することができた。またその前日に、同様のテーマで、共産党青年団の学校においても学生と活発なディスカッションを行うことができた。これは現在、中国共産党がとくに農村・都市発展政策や環境・エネルギー問題で日本と科学技術分野を中心とした交流を積極的に進めたいと考えていることを示唆しているといえる。そこで、今回は科学技術そのものに関するテーマから少し離れて、最近、学術研究・人材育成といった側面から積極的に海外の機関と交流しようとしている中国共産党の研究・教育機関である党学校について紹介する。

中国共産党は 1921 年に成立した後、中華人民共和国の建国によって政権政党となった。中国共産党規約によると、党の最高の理想と最終目標は共産主義を実現することである。また、2020 年までに GDP を 2000 年の 4 倍とし、「全面建設小康社会（いくらかゆとりのある社会を全面的に建設する）」という目標を打ち出している。今後、政治の民主化と一党による支配体制とのバランスをどう取っていけるかが注目されている。

一方で、世界でも最大といってよいほどの党員を抱える中国共産党にとっては、党員の教育は大変重要である<sup>1</sup>。中国共産党の中樞研究教育機関として 70 年以上の歴史を持つ中国共産党中央党校は党の高級・中級幹部、幹部候補生の教養・政策能力・理論水準を高めるための研修や研究会を行っている。また、共産党の予備軍と次世代の党の担い手の育成を任されている中国共産主義青年団（共青团）の教育機関の中国青年政治学院の役割も大変重要である。この中国青年政治学院は、共青团の幹部が理論と実践の両面で研修を実施している。

## 中央党校の概況

### 1. 設立の経緯

中国中央党校の設立日と歴史的経緯については、現在もまだはっきりとした見解が出されていない<sup>2</sup>。こうした中で、中央党校党史部李東朗教授の説によると、中国共産党が 1933 年に党幹部の養成やマルクス・レーニン主義、自然科学理論などを民衆に宣伝するために設立した“マルクス共産主義学校”が、中央党校の前身であるとのことである<sup>3</sup>。

<sup>1</sup> 2004 年末時点で、中国共産党は 6960 万人以上の党員がいるといわれている。

<sup>2</sup> 中央党校謝春涛教授の談話より。

<http://past.people.com.cn/GB/guandian/29/171/20010619/491818.html>

<sup>3</sup> 「源于科学 成就于科学—中央党校党史部李東朗教授の訪問記」より。

<http://www.sciencetimes.com.cn/col156/article.htm?id=75298> 中国科技信息研究所

歴代の校長：

1949年10月-劉少奇

1953年3月-凱豊

1954年11月-李卓然

1955年4月-揚献珍

1961年2月-王従吾

1963年1月-1966年8月：林楓

1977年3月-華国鋒、1982年4月-王震

1987年3月-高揚

1989年3月-喬石

1993年2月-胡錦濤

2002年12月-曾慶紅

## 2. 中央党校の概況

70年以上の歴史を持つ中国共産党中央党校であるが、現在も、党の高級・中級幹部、幹部候補生の教養・政策能力・理論水準を高めるための研修や学術・政策検討会などを中心とした活動をしており、現校長には曾慶紅国家副主席が就任している。また、実際の日々の学校経営を担っている副校長は、蘇榮、王衛光、李君如、石泰峰、孫慶聚の5名である。研究部門としては、哲学、経済学、科学社会主義、政法、中国共産党の党史、党の建設、文史などの学科と国際戦略研究所が設けられている。教職員は1360人、研修コース全体で1600人程度が入学している。その他には、研修部、養成部と大学院が設けられている。中国共産党および政府の幹部になるためには同校での研修が必須であり、1年間の研修部には既に豊富な実務経験を有する局長クラス以上の者が全国から毎年250名参加している。他方、養成部は「中青年」（30代から40代）の予備幹部および新疆、チベットなど少数民族幹部の養成を担当している。そして、大学院はマルクス主義理論学科の博士、修士の学位教育および党校系学校の講師の再教育をしている。

さらに、中央党校は、中央直接管轄機関、人民解放軍、中央金融工作委員会と中央企業工作委員会に支部を設け、高級幹部の実地研修も行っている。また、各省、自治区、市にもそれぞれ委員会（地方）党校があり、校長は各地の委員会副書記などが兼務している。

党校は、『学習時報』、『理論動態』、『理論前沿』、『中国党政幹部論壇』、『中共中央党校学报』などの機関誌を発行している。

主な卒業生

劉雲山 中央宣伝部長

王忠禹 全国政協副主席

王樂泉 新疆ウイグル自治区党委書記

陳至立 国務委員

したがって、中国共産党との関係において、中央党校は、共産党幹部と地方指導者に対する党の教育機関として最高位にあり、中国共産党の政策理論形成における最高権威機関としても位置付けられている。つまり、中国全土に展開する指導者のネットワークの構築を担うなかで、政策形成、実施双方の面において大きな影響力を持っている。

## 中国青年政治学院

### 1. 設立の経緯

中国青年政治学院は 1985 年 12 月に旧中央団校の元に設立した。中国共産主義青年団中央が直接に管轄している大学である。旧中央団校は 1948 年 9 月に設立され、中国共産党が指導する青年を対象とした全国組織である共産主義青年団のリーダーの養成を目的としている。学校名を青年政治学院に改めた後は、中国共産主義青年団における最もハイレベルの大学として、主に、4 年制大学による教育と共産主義青年団幹部の養成の双方を実施している。1985 年の青年政治学院になる前の旧中央団校は、それまで 7 万 3000 人余りの青年幹部を送り出した。青年政治学院は共青团の幹部の育成と青年団事業の発展のために重要な役割を果たしている。

歴代の校長は青年団中央第一書記が就任する：

冯文彬 1948 年 9 月－1952 年 9 月

胡耀邦 1952 年 9 月－1966 年 8 月

韓 英 1979 年 4 月－1982 年 10 月

王兆国 1982 年 11 月－1985 年 5 月

胡锦涛 1985 年 5 月－1985 年 11 月

宋德福 1985 年 11 月－1993 年 5 月

李克強 1993 年 5 月－1998 年 6 月

周 強 1998 年 6 月－2006 年 9 月

胡春華 2006 年 9 月現在

副校長は、陸士楨(研究分野：社会問題、青少年研究)、酒曙光(研究分野：高等教育管理)、張樹(研究分野：政治経済学、高等教育管理)、高延斌(研究分野：高等教育管理)、李家華(研究分野：政治教育思想)、王義軍(研究分野：哲学)。

## 2. 青年政治学院の概要

現在の青年政治学院は、共産党青年団幹部の養成のみならず、1986年に第一回目の学部生の募集を始め、2003年に修士学位の授与権を教育部から許可された。また、学院は学部教育、大学院教育、学位教育、留学生教育、生涯教育など様々な形式の教育に力を入れている。現在13の専門分野を抱えていて、法学、管理学、経済学、文学を含めている4つの学部と、8つの大学院修士課程を設けている。また、青少年工作部、社会工作と管理部、法律部、経済部、新聞とマスコミ部、公共管理部、中国言語文学部、外国言語文学部、社会科学部、文化基礎部の8つの学部が設けられている。さらに、外国語教学と研究センター、コンピューターサイエンスと応用のセンター、体育センターなど5つの教育を目的としたセンターが設けられるほか、青年発展研究院、青年心理研究所、青少年政策研究所、青少年法学研究所など研究機関も設立されている。2006年に青年政治学院は教育部により国家大学生文化素質教育基地に指定された。現在在籍している学生数は3500人、教職員は100人ぐらいがいる。

## 3. 共産主義青年団（共青团）との関係

中国共産主義青年団は、中国共産党による指導のもと14歳から28歳の若手エリート団員を擁する青年組織である。中国共産党中央委員会は2006年9月6日に、青年団第一書記に胡春華氏を任命した。前身の旧団校は、「1922年5月に発足。団員数は7214万6000人（2005年末現在）、国家統計局による青年数を基に計算すると、全国青年団団員が全国青年に占める割合は25.3%である<sup>4</sup>。共青团が指導する下部組織として、中国少年先鋒隊（少先隊）があり14歳以下の少年が所属している。

共青团の出発点は、1920年8月に上海で発足した社会主義青年団である。また上海以外でも、各地に社会主義青年団が作られていった。中国共産党は1921年に正式に発足したが、それに先立って共産主義活動の基盤層を固めるために、青年組織が作られたことになる。1922年5月には、共産党の指導のもとで広東省・広州市で第1回全国代表大会が開催され、全国の統一組織である中国社会主義青年団が結成された。

1925年1月には、第三回全国代表大会で名称が中国共産主義青年団に改められた。1949

---

<sup>4</sup> [http://cyc6.cycnet.com:8090/ccylmis/tgpx/content.jsp?id=82090&s\\_code=1003](http://cyc6.cycnet.com:8090/ccylmis/tgpx/content.jsp?id=82090&s_code=1003)  
全国団幹部教育養成網より。

年4月には中国新民主主義青年団となったが、1957年5月には、中国共産主義青年団と旧名称に戻された。共青团団員は直接中国共産党に入党することも可能であるが、将来共産党高級幹部を目指すためには先ず共青团に入団し、共産党に入党するのがエリートコースとされている。

#### 4. 青年政治学院における青年団幹部の養成について

1950年各地方における青年団組織の設立と団の幹部の配置の完成によって、旧中央団校は共青团に在籍している中級幹部を対象に、毎年1期－2期の養成コースを行われた。その後、共青团中央は旧中央団校の養成コースを県クラス委員会の正副書記の職務を担当している幹部を対象にすると明確に規定した。1991年1月、共青团中央が「中央団校養成工作の強化に関する意見」において、中央団校の養成対象は主に①市のクラス委員会の正副書記を担当している幹部、②一部の県クラス委員会の書記、大型企業（主に国有企業）、大学（主に重点大学、3000人以上の大学）の団委員会の書記、③省クラス委員会に所属する機関の部門のリーダー、④少数民族青年幹部、そして⑤地方団校の教師であるとした。

2002年に共青团中央は、「2002年－2005年における全国団幹部教育養成計画」において、三つの代表の思想に基づく団幹部の養成を主要な任務であると指摘した。

これまで、青年政治学院は全国各クラス委員会幹部の5万6000人を養成した。その中には、多くの共産党、政府の高幹部を輩出し、中国の政治家の「揺りかご」と言われている。

一方で、これまでの青年政治学院における教育は、団中央の青年幹部をはじめとする共産主義思想の養成が中心で、大学における国際的な交流についてはまだ不十分であると指摘されている<sup>5</sup>。従って、今後青年政治学院は、養成対象範囲を拡大し、国際的な青年リーダーの育成を目指すことを目指すということである。その一例であるが、90年代から、団幹部を対象として、ビジネス英語コース、現代企業制度研究クラス、MBAコースなどを開講してきた。また、青年政治学院は積極的に国際交流を推進しており、国際的な背景を持つ団幹部を育成することを目標としている。具体的には、団幹部の海外研修や、海外の青年リーダーの招聘などを実施している。また、青年政治学院は、1995年1月に山東省長島、2002年12月に江蘇省無錫、2004年12月に山東省青島でそれぞれ「中央団校養成基地」を設立した。北京以外の地域で養成基地の設立は、地方における団幹部の養成事業の発展の促進に積極的な役割を果たしたと考えられる。

---

<sup>5</sup> [http://cyc6.cycnet.com:8090/ccylmis/tgpx/content.jsp?id=79801&s\\_code=1009](http://cyc6.cycnet.com:8090/ccylmis/tgpx/content.jsp?id=79801&s_code=1009)  
青年政治学院副校長陸士楨氏の講話より。

## 5. 中国における青年政治学院の役割

2002 年末までに全国における青年団団員、団組織（団委員会）と団幹部の一覧

青年団団員、団組織（団委員会）と団幹部の一覧（2002 年末までの統計）<sup>6</sup>

	青年団の 団員数	基層における 団委員会の数	団委員会 の支局	団委員会 本部の数	専門職の団 幹部数	兼務の団委員 会書記、副書記
合計	6986 万人	21 万箇所	24 万箇所	272 万 箇所	18.3 万人	35.4 万人

青年政治学院は、実質中国共産党の予備軍である若手幹部の養成学校としての機能を有している。上述の統計を見ると、全国の青年団幹部の養成は共産党にとって大変重要であることがわかる。中国共産党規約第十章によると、中国共産主義青年団は、中国共産党が指導する先進的な青年の一般的な組織であり、青年が実践の中で中国の特色のある社会主義と共産主義について学習する学校であり、広範な意味で党予備軍であると位置付けられている。共産主義青年団中央委員会は、党中央委員会の指導を受ける。共産主義青年団の地方各クラスの組織は、同じクラスの党委員会の指導を受けると共に、共産主義青年団の上部組織の指導を受ける。党の各クラス委員会は、共産主義青年団に対する指導を強化し、青年団の幹部の選抜と養成・訓練を十分に配慮しなければならない。共青团の県レベルおよびそれ以下の各委員会の書記、企業・事業体の青年団委員会の書記は、党員である場合、同じレベルの党の委員会および常務委員会の会議に参加することができる。

1980 年代以降になると、政府首脳部で共青团の幹部出身者の活躍が目立つようになる。その中でも代表的なのは、共産党総書記を務めた胡耀邦、中央政治局常務委員を務めた胡啓立で、いずれの共青团のトップである中央書記処第一書記の経験者である。したがって、第一書記の指導の下にある青年政治学院の役割は共青团中央からも重要視されている。また、現職の胡錦涛・国家主席も共青团中央書記処第一書記を経験しており、中国の指導者層では、共青团幹部出身のグループは強いつながりを持つとされており、「団派（T u a n p a i）」と呼ばれることがある。主な出身者は胡耀邦、胡錦涛、李瑞環、胡啓立、王兆国、李克強、そして李源潮である。江沢民に連なる上海派に対し、胡錦涛を代表とする共青团

<sup>6</sup> [http://cyc6.cycnet.com:8090/ccylmis/tgpx/content.jsp?id=10821&s\\_code=1003](http://cyc6.cycnet.com:8090/ccylmis/tgpx/content.jsp?id=10821&s_code=1003)  
全国団幹部教育養成網より。

人脈も地方で若手を中心に勢いをつけている。

## おわりに

現在、共産党中央党校や共青团は、中国社会のエリート養成システムであり、行政、立法、司法、軍など、社会のあらゆる部門に団員会や共産党組織を設け活動している。しかし、改革開放時代に入り、世界情勢の激しい変化や中国国内における社会変貌に対応するために、共産党中央党校や青年政治学院における共産党員幹部や青年団幹部への思想教育や人材養成の役割はますます重要になっている。

角南 篤  
陳 漓屏

(注)本レポートはJST 研究開発戦略センター／海外コンサルタントレポートの再掲です。